

平成 21 年 6 月 20 日現在

研究種目：若手研究 (B)  
 研究期間：平成 18 年～20 年度  
 課題番号：18720033  
 研究課題名 (和文) 芸術遺産／資本の表象—19 世紀仏の挿絵入り美術出版物に関する調査研究  
 研究課題名 (英文) Representation of Cultural heritage/capital: a study for 19<sup>th</sup> century French illustrated books  
 研究代表者 陳岡めぐみ (Megumi Jingaoka)  
 独立行政法人国立美術館 国立西洋美術館 学芸課 研究員  
 50409702

## 研究成果の概要：

複製版画による挿絵入り美術出版物というメディアの国際的往来の考察を通じて、19 世紀の産業応用芸術運動を背景とした芸術遺産／資産の表象の問題に光をあてた。とくにフランスから明治日本へ送られた挿絵入り美術出版物をめぐって、明治の洋画や工芸、蜷川式胤との関係から新知見を得て、さらに個別研究も含めた今後の研究の展開の可能性を得ることもできた。

## 交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
平成 18 年度	1,200,000	0	1,200,000
平成 19 年度	1,000,000	0	1,000,000
平成 20 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,900,000	210,000	3,110,000

## 研究分野：人文学

科研費の分科・細目：美学・美術史

キーワード：美術史 表象文化論 メディア史 文化遺産 応用芸術

## 1. 研究開始当初の背景

芸術遺産／資産の表象の問題は、近年、注目を集めながらも、多くの研究余地を残している。また 19 世紀の複製版画による挿絵入り出版物というメディアも未開拓の領域である。産業応用芸術運動を背景としてその国際的な往来を考察する本調査研究は、歴史的、学術的な新知見をもたらすことが期待できた。

## 2. 研究の目的

芸術的・文化的産物が産業社会における貴重な資本／守るべき国家遺産とみなされていく近代の流れのなかで制作された挿絵入り美術出版物の背景と意義、国際的な往来の概要について、近代フランスと日本を中心に明らかにする。

## 3. 研究の方法

フランスの文化芸術行政との関わりのなかで、第三共和制期のフランスから明治日本へ送られてきた挿絵入り美術出版物をめぐる行政文書の調査研究を中心に、日仏の図書館・研究機関において、同時代の言説および画像の収集を進め、分析をおこなった。

## 4. 研究成果

本研究ならではの 19 世紀の視覚的情報の往来に関する分析を深めるとともに、19 世紀の応用芸術史、文化史研究に新知見をもたらすことができた。成果については、調査の途中経過は研究会で口頭発表済み、全体を総括した調査報告は所属機関の次号の紀要に発表予定。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計 1 件)

H19年2月ヨーロッパ民俗学研究会「海を渡る複製イメージ 明治日本と国立東洋言語学校の書籍交換事業をめぐる調査報告」

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

陳岡 めぐみ

独立行政法人国立美術館 国立西洋美術館

学芸課 研究員

50409702

### (2) 研究分担者

### (3) 連携研究者